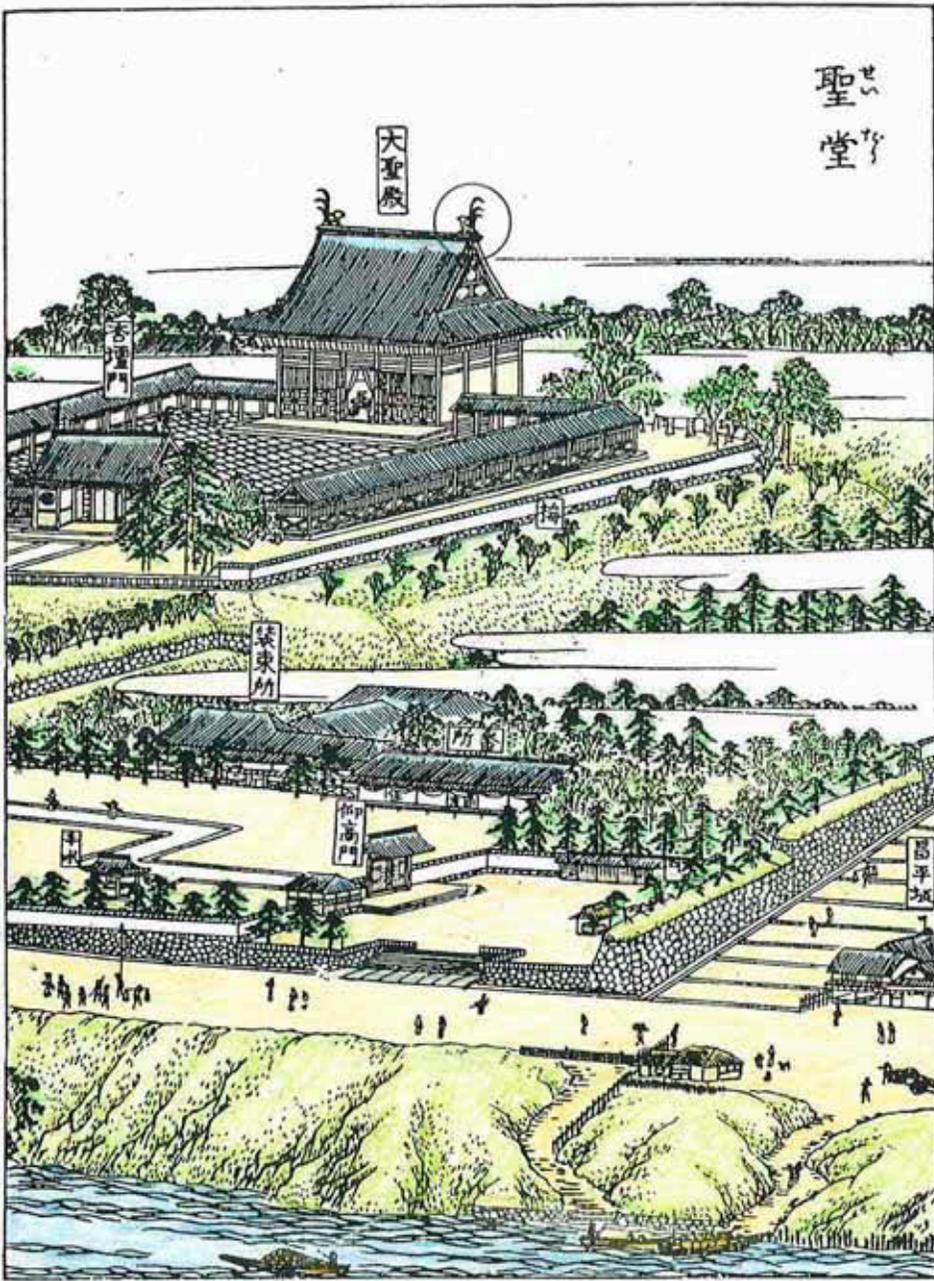
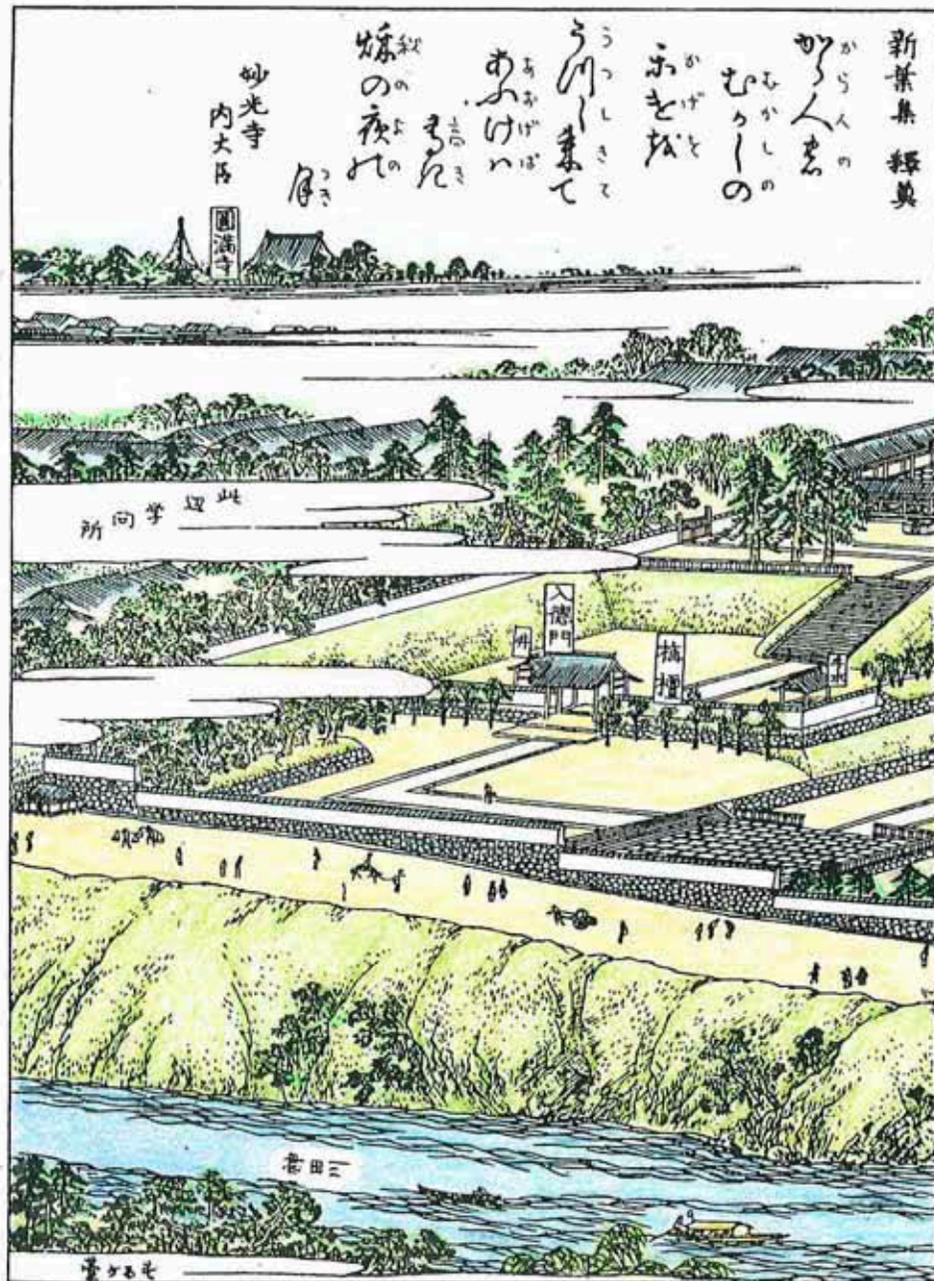


湯島聖堂

学問好きの五代將軍綱吉が上野忍岡からここへ移した学問所。大正の震災で入徳門以外は全焼。昭和10年再建された。

聖堂 昌平橋の外、湯島にあり。
元祿四年、台命あつて今の地に遷させられ、本邦第一の學校にして、實に東都の一盛典なり。

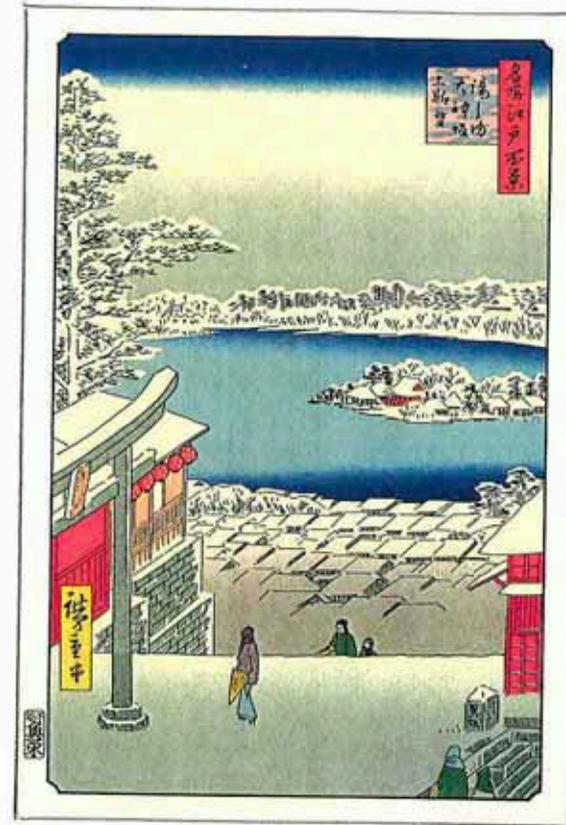


37 湯島天満宮

文京区湯島三の三十の一

〓 学問の神様菅原道真を祀る古社で梅の名所〓

高台にある男坂の上から不忍池を望む。



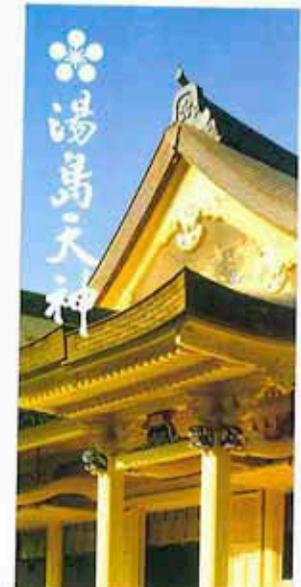
広重『名所江戸百景』



太田道灌や徳川家康の崇敬を受け、学者・文人らの参拝も多くあった。平成7年に木曾の総檜木造りで再建された。



合格祈願の札が鈴なりになっている。最盛期には5万枚を越えるという。



神社のパンフレット

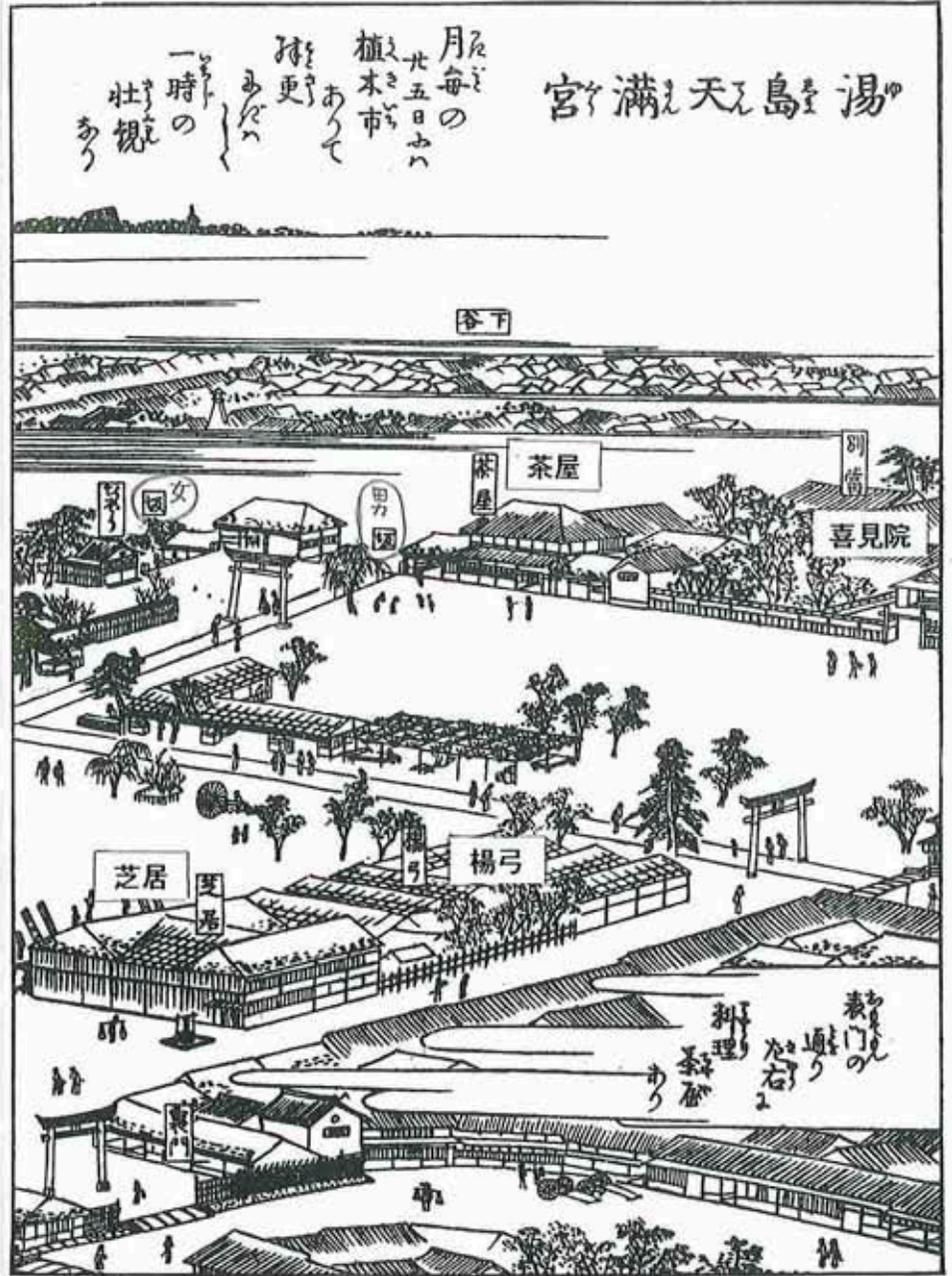
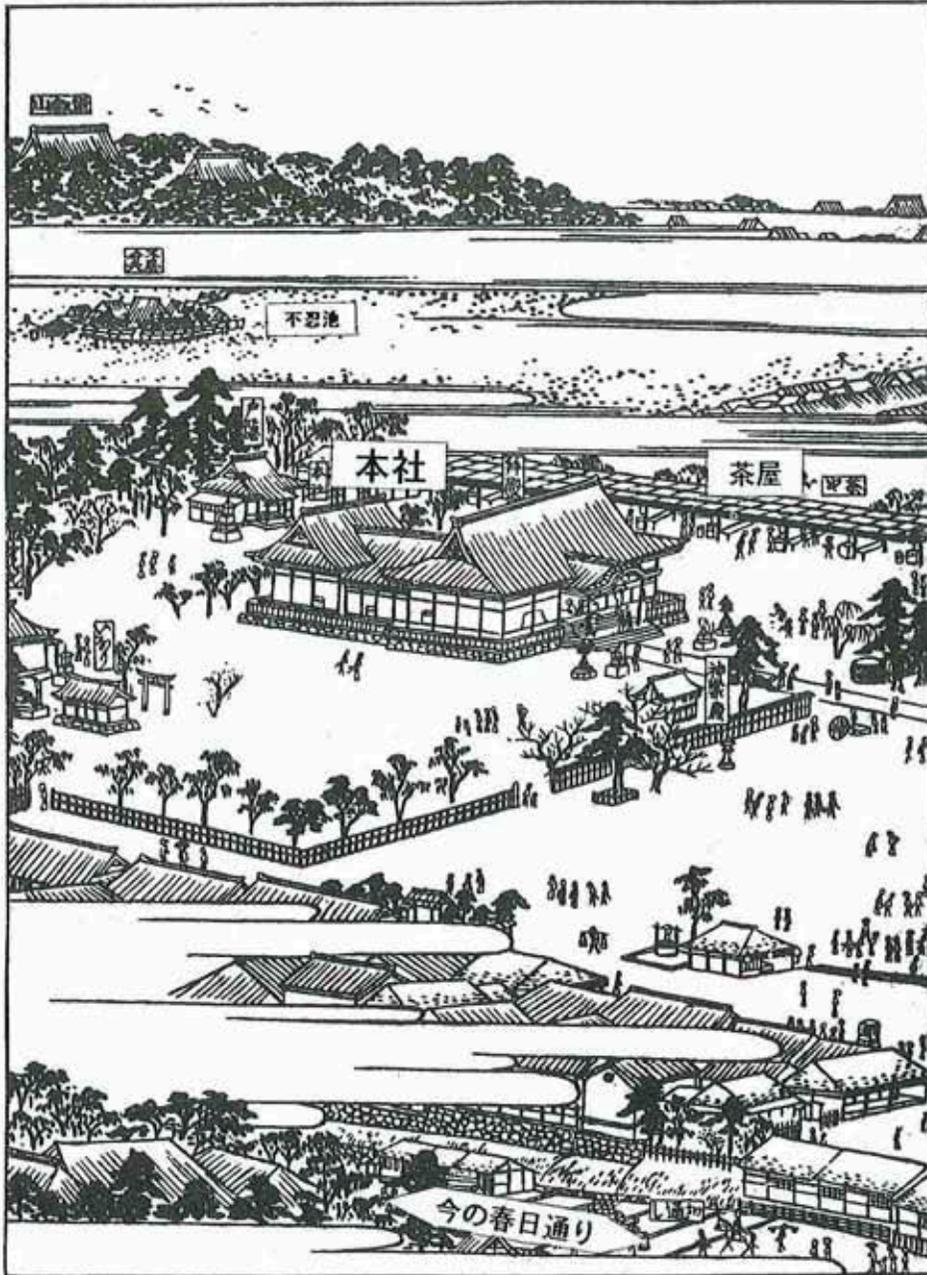
江戸の遊樂の地で、とくに富くじは谷中感応寺や目黒不動と並んで「江戸の三富」の1つでたいへん賑わった。

湯島天満宮

大和時代の21代雄略天皇2年(458)の創建と略記にはある。菅原道真は南北朝時代の正平10年(1355)湯島の郷民達によって奉祀された。

湯島天満宮
 「風土記」に曰く、豊島郡湯島神社。雄略天皇御宇二年癸巳八月。自官所祭。天手力雄神也云々。

湯島神社
 土人戸隠明神と稱す。本社の後の方にあり。則地主の神なり。



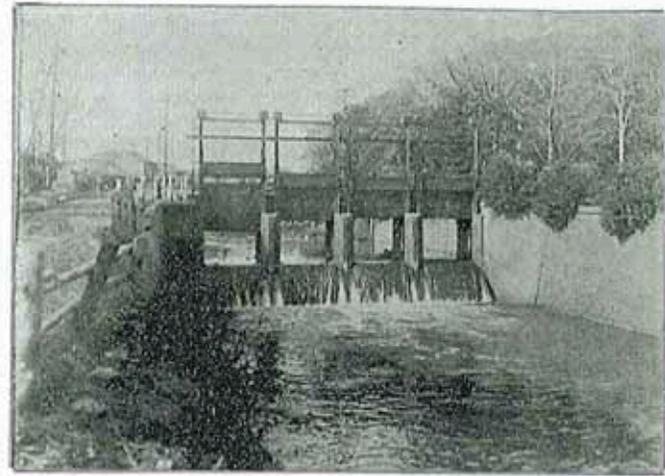
38 大洗堰

文京区関口二丁目

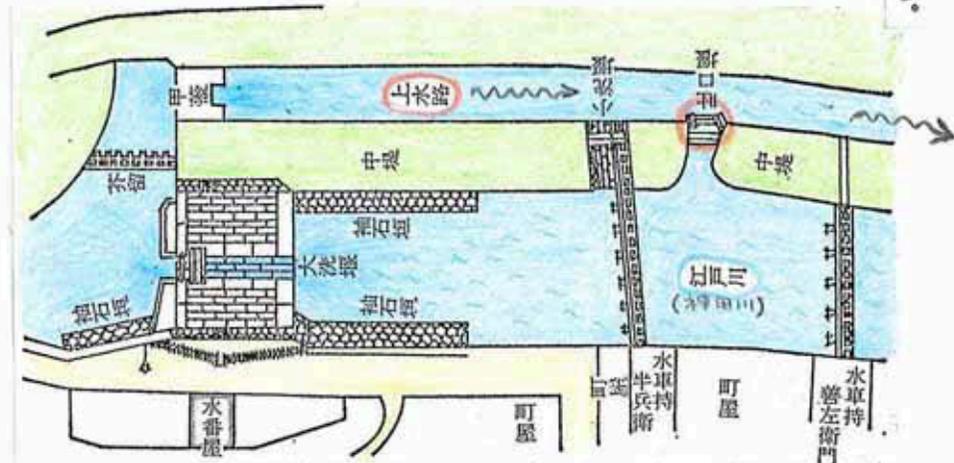
江戸川公園の大滝橋の下流際

江戸市内への飲水を分けた堰

大正8年の大洗堰で昔の型とは大部違う。



昭和8年廃止となった。



大洗堰の平面図。

「東京都水道歴史館」の資料



堰のあった所。右側が江戸川公園。



上水路の吐口堰。公園に保存されている。

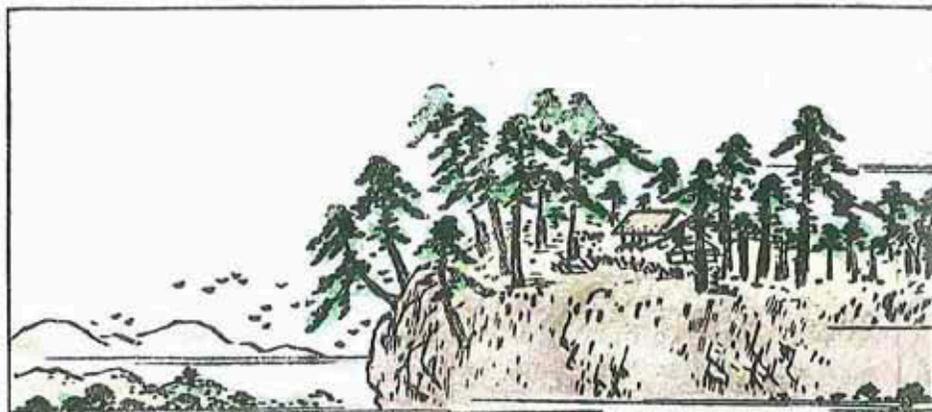


大洗堰から巻石通りをって今の後楽園への上水路。

大洗堰

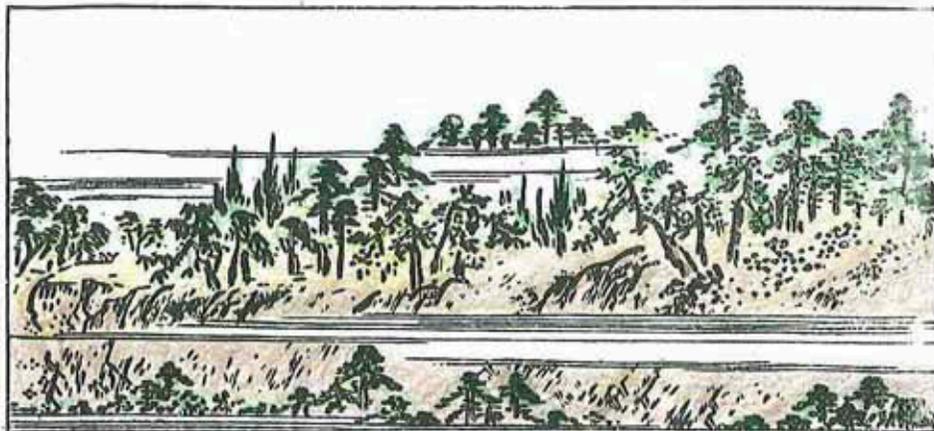
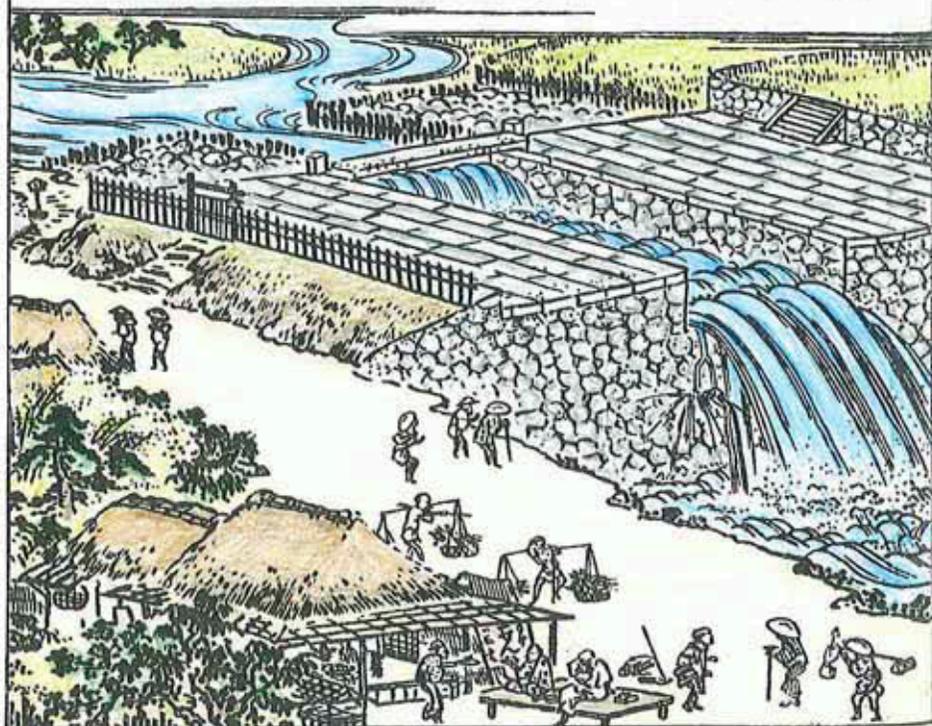
江戸時代前期の承応年間（1652～1655）に築かれた。上が上水の飲水で下は余水。水戸徳川家上屋敷（今の後樂園）を経てその先の掛樋を通して神田・日本橋方面に給水した。

大洗堰 目白の崖下にあり。承応年間殿命により、當國多摩郡牟禮邑井頭の池水をして、江戸大城の下に通せしむ。其頃此地に堰を築かせられ、其上水の餘水を分けらるゝ。

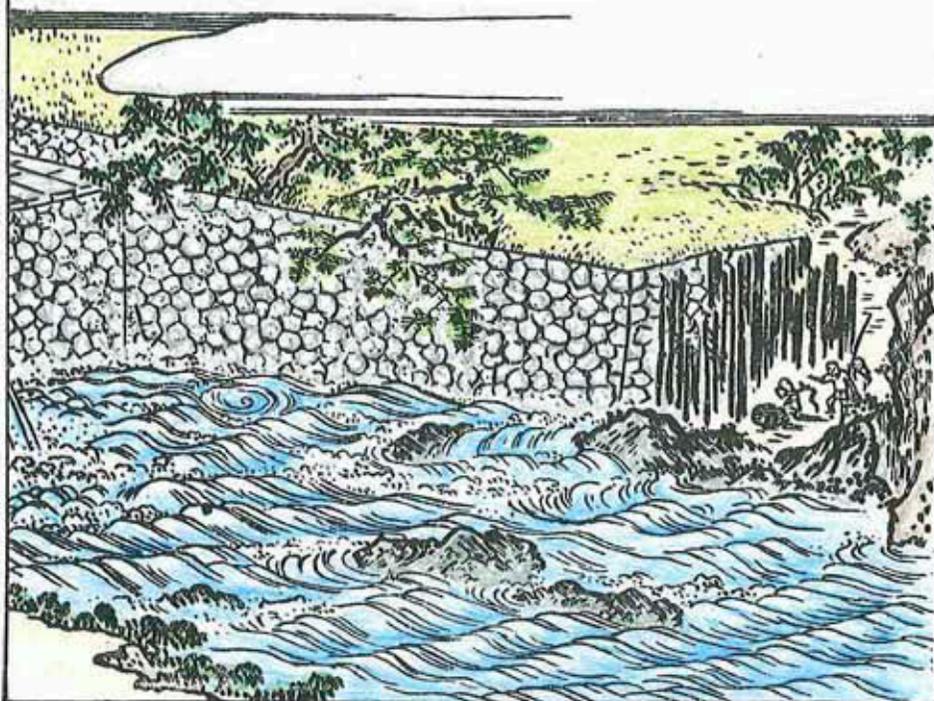


飲水用の上水を分水

水戸徳川家上屋敷へ（後樂園）



堰洗大下目白



水戸徳川家上屋敷（後楽園）

文京区後楽一丁目

II 明暦の大火（1657）のあと城内の吹上にあった上屋敷がここへ移るII



屋敷の範囲。約10万坪の広さがあった。中世の頃はまだ沼地だった。

神田上水の取り入れ口。上水はここをとお茶の水の懸樋を渡り江戸の神田・日本橋方面に給水した。庭園にも利用した。

明治の頃、後楽園は陸軍の砲兵工場があった。昭和8年後楽園球場がオープンした。

昭和63年東京ドームが出来て平成11年ホテルが完成した。



小石川後楽園

昭和13年都の公園として開園。
2万8百坪。

神田・日本橋方面に給水

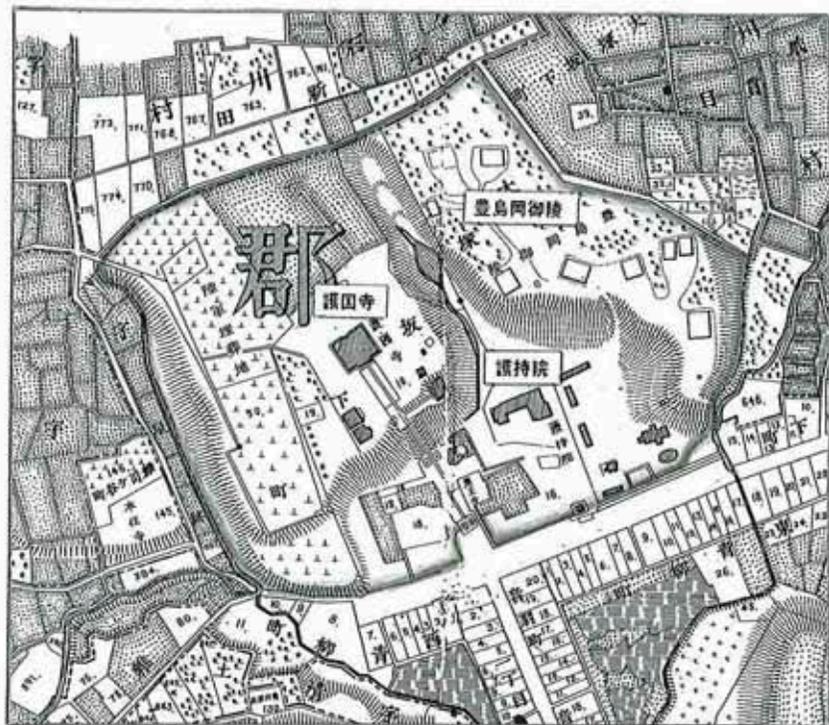
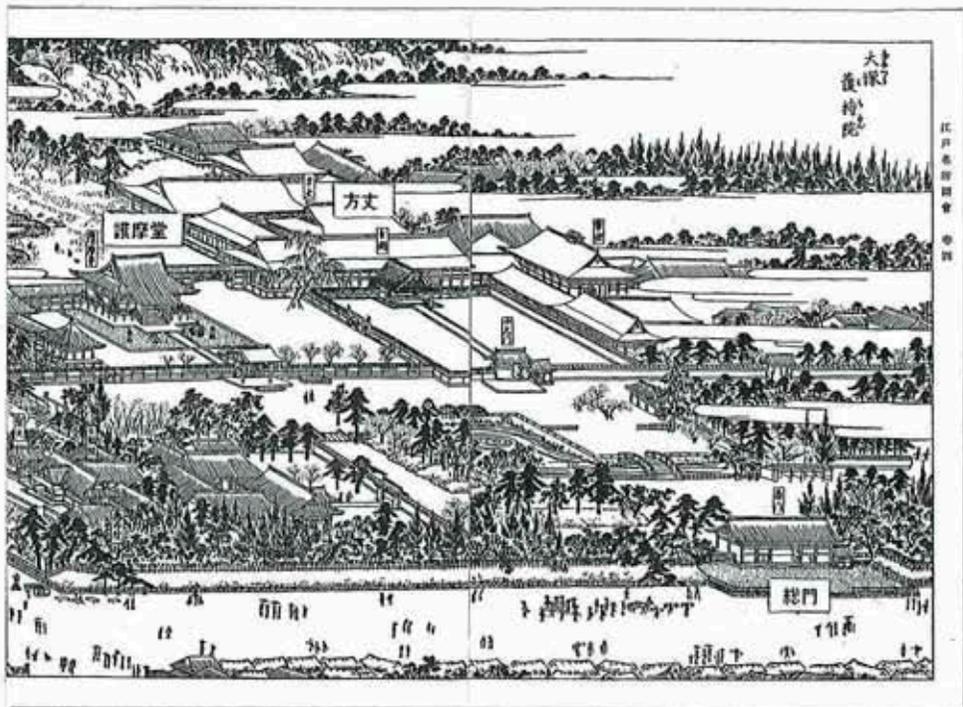
40 神齡山護国寺

文京区大塚 五の四十の一

將軍家の祈願所で約1kmの参道の御成道（音羽通り）が残っている。



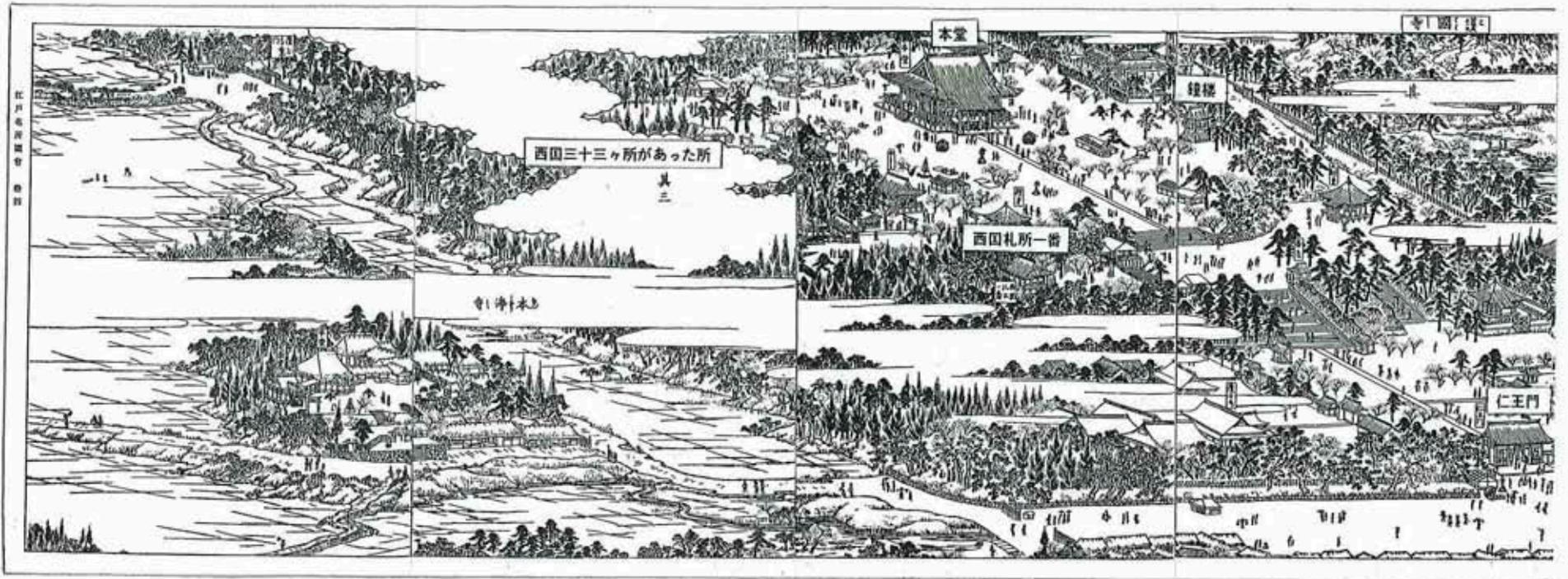
本堂は元禄10年（1697）の創建。



明治20年頃の護国寺。まだ護持院がある。



境内に学校が出来た。『文京区史跡さんぽ地図』



護国寺は、5代將軍綱吉が母桂昌院の願いにより天和元年（1681）創建した真言宗の寺。元は幕府の高田薬園だった。護持院は神田橋外にあったが享保2年（1717）火災で焼失し、その後護国寺に合併された。明治の中頃廃寺となった。

神籬山護国寺 當寺は延寶九年二月七日、高田御薬園の地を賜ひて寺とす。新義の真言宗
 西国三十三番順禮札所寫 本堂より西の方の山間にあり。天明年間深林を伐り開き、各其地勢に
 因つて俵を摸す。四時草木の花絶えずして、諸人の眼をよろこばしむ。筑波山護持院 音羽町の北にあり。



西国三十三ヶ所巡りが天明年間（1781～1789）に西側に造られ庶民の行楽地となった。

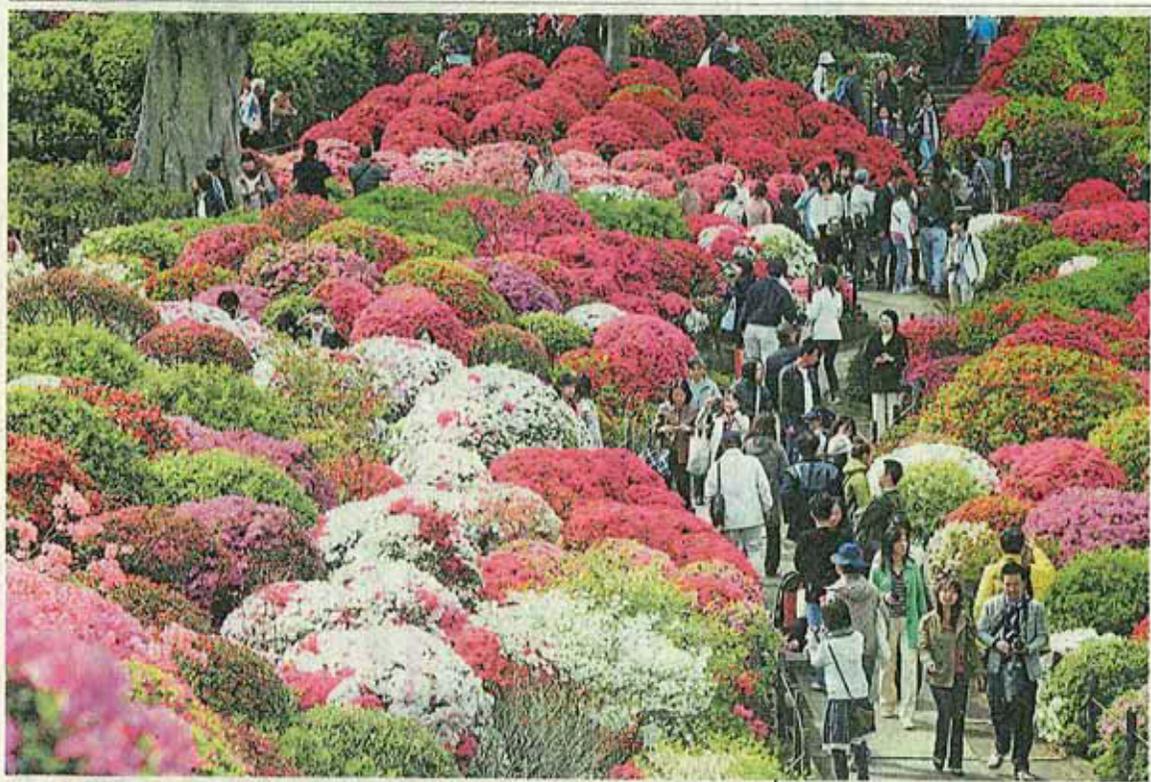


護持院の立派な総門だけが残っている。

〓上州館林から移植されたつつじの名所〓



昔の神社の範囲。神主の屋敷が南側にあり、水戸徳川家中屋敷が隣接していた。



鮮やかつつじ 咲き競う

咲き競うように色づいたつつじが根津神社（東京都文京区）で見ごろを迎えている〓写真。

境内の「つつじ苑」約6600平方メートルに、フジつつじやキリシマなど約50種3000株が咲き誇っている。華やかな色のつつじは周りの緑と鮮やかなコントラストを見せる。訪れた人たちは、思い思いの場所を見つけては盛んにシャッターを切っていた。今年は気温が低かったため咲き始めは遅かったが色づきは例年通りという。

【写真・文 三浦博之】



view 東京都

根津神社

文京区根津1-28-9

Access

千代田線根津駅、南北線東大前駅より徒歩5分。都営三田線白山駅より徒歩10分

Tel 03-3822-0753
(同神社テレホンガイド)

毎日新聞

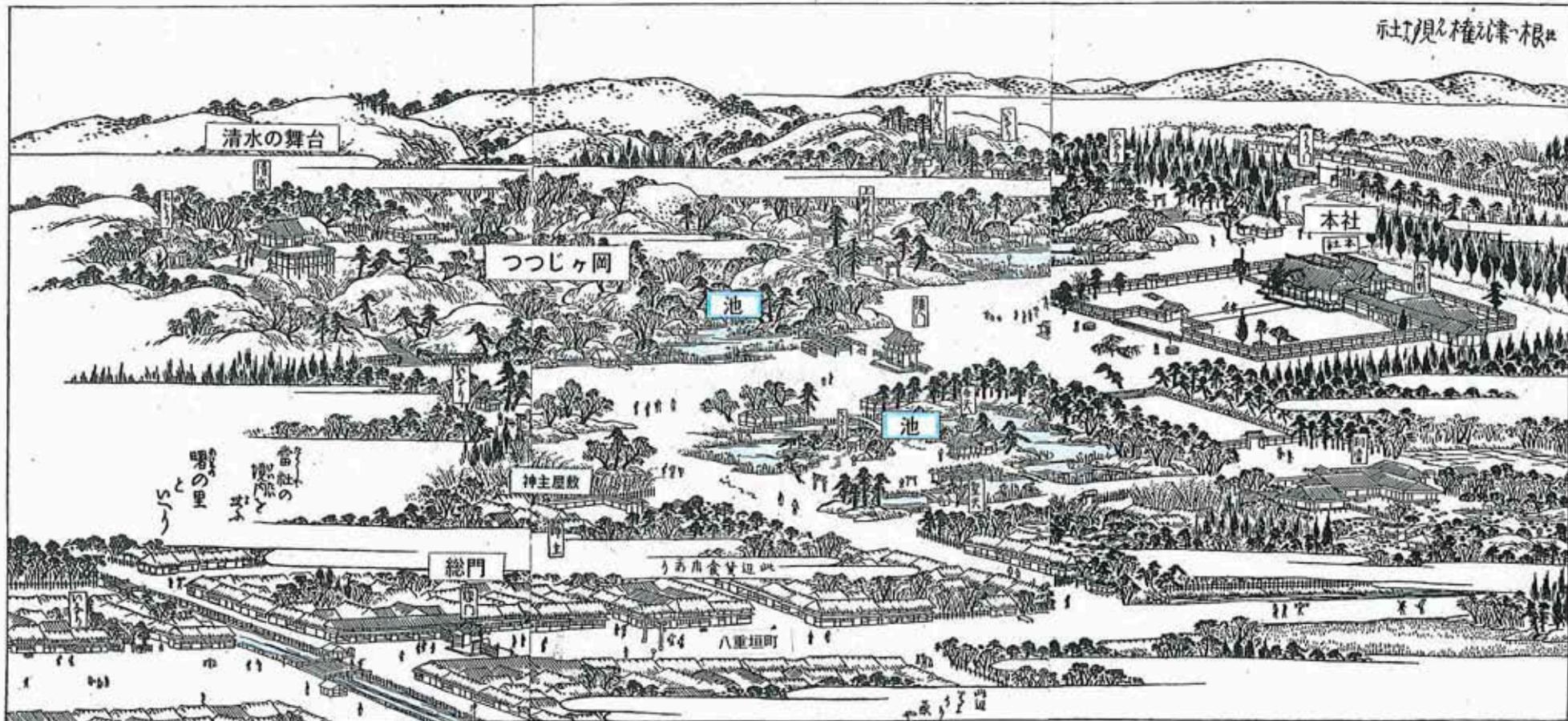


権現造りの社殿は重要文化財。祭神は須佐之男命ほか四神。

根津權現社

日本武尊が東征の際創建したとされる古社。元は北側の
団子坂の上にあったが、宝永3年（1706）5代将軍
綱吉が兄の綱重の屋敷だった今の所へ移した。

当社境内は假山・泉水等をかまへ、草木の花四季を逐うて絶えず。實に遊觀の地なり。殊に門前には貨
食店軒をならべて、詣人を慰はしめ、酹歌の聲聞斷なし。



《神社の発祥地》



中央の弁天池は今はない。



楼門の左の池は今でもある。



左の本郷図書館の所にあった。



団子坂を上った千駄木3-2の所。

42 小石川御薬園・療病院

(小石川植物園)

文京区白山三の七の一

江戸の貧しい人達の為の病院があった所。薬草を栽培していた。

|| 絵はない ||



旧養生所の井戸。水質が良く水量も多かった。

A 地点の庭園の池で右側が高台の崖になっている。元は5代将軍綱吉の幼少期の下屋敷だった所。



明治8年東大の植物園となった。4万4千坪ある。



小石川養生所の見取図

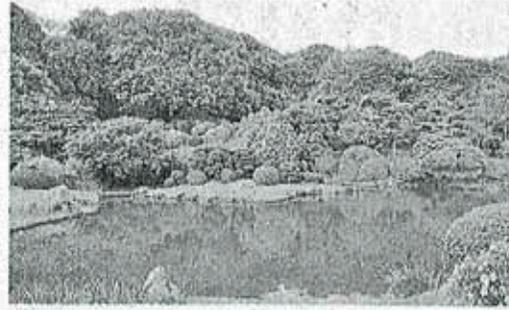
『文京の歴史風景』

小石川植物園史跡に

文化審答申 名勝にも指定

文化審議会は15日、大浦天主堂境内(長崎市)や田島弥平旧宅(群馬県伊勢崎市)など7件を史跡に、津屋川水系清水池ハリヨ生息地(岐阜県海津市)など5件を天然記念物に指定、別府の湯けむり・温泉地景観(大分県別府市)など4件を重要な文化的景観に新たに

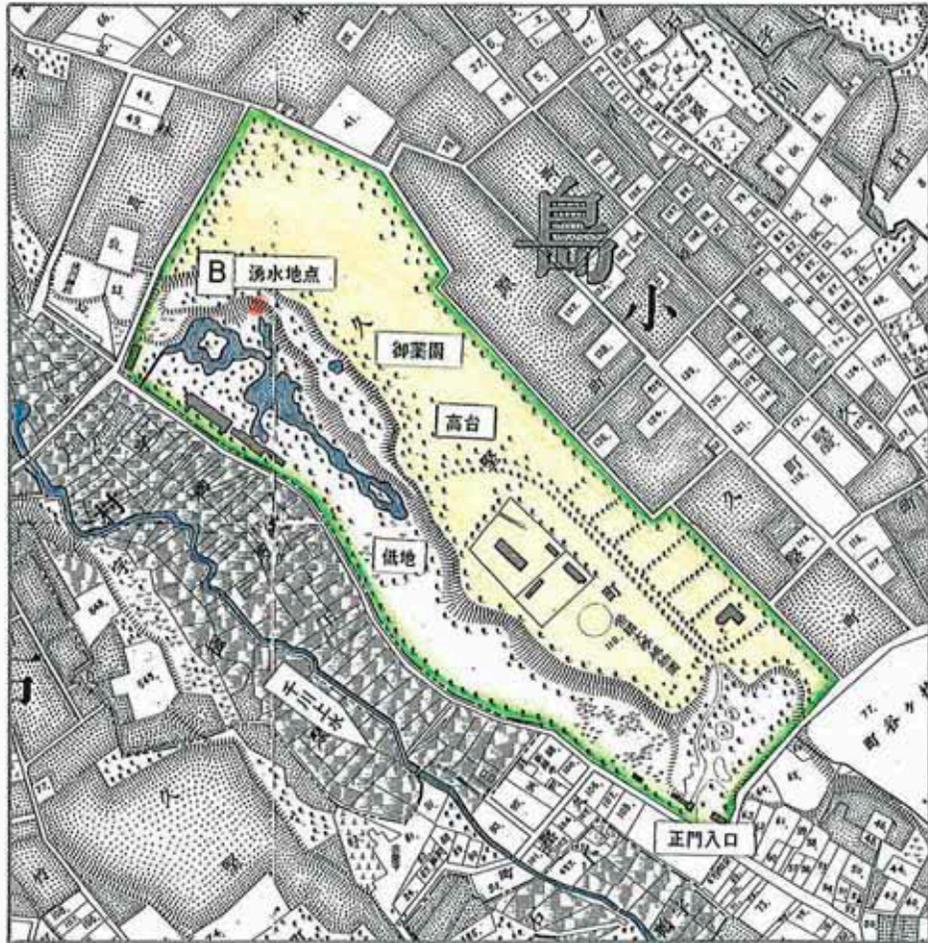
選定するよう、文部科学相に答申した。



小石川植物園II文化庁提供



明治時代の東大医学部本館(国指定文化財)



明治20年頃の植物園の様子

ここは、享保7年(1722)8代将軍吉宗が大岡越前守に命じて建てさせた貧しい人達への病院があった所で、山本周五郎の小説「赤ひげ診療譚」の映画の舞台となった所。
薬草の栽培の他、飢饉用にさつまいもが作られたり大奥用の化粧水「へちま水」も作られていた。

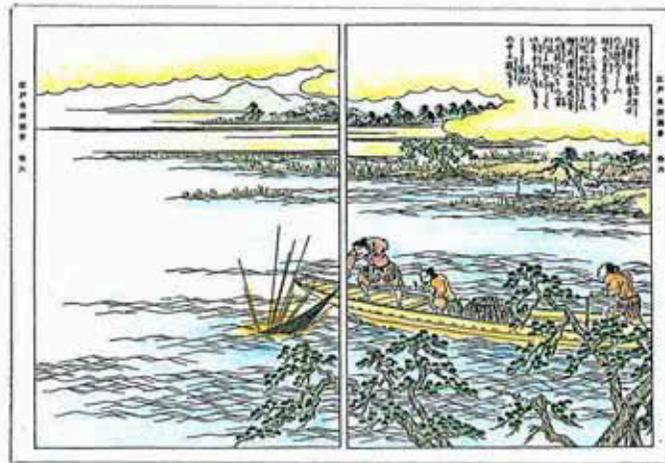


B 地点にある湧水地の源。今は水が出ていない。

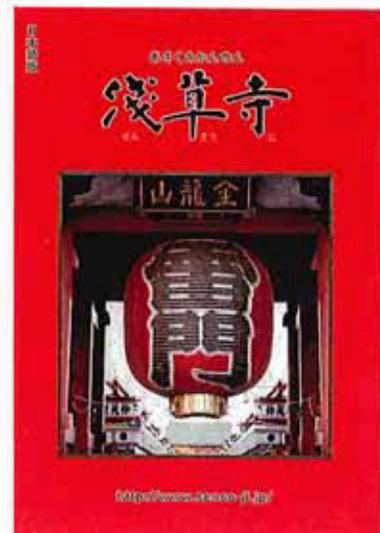
御薬園 同所の西南にあり。所謂白山御殿の舊地是なり。
療病院 同所の西に並ぶ。養生所と號けらる。則古の療病院に比せられ、鰥寡孤獨、貧窮無頼の病人を救はせ給はんがため、享保年間官府より是を建てさせられる。

《浅草寺の略歴》

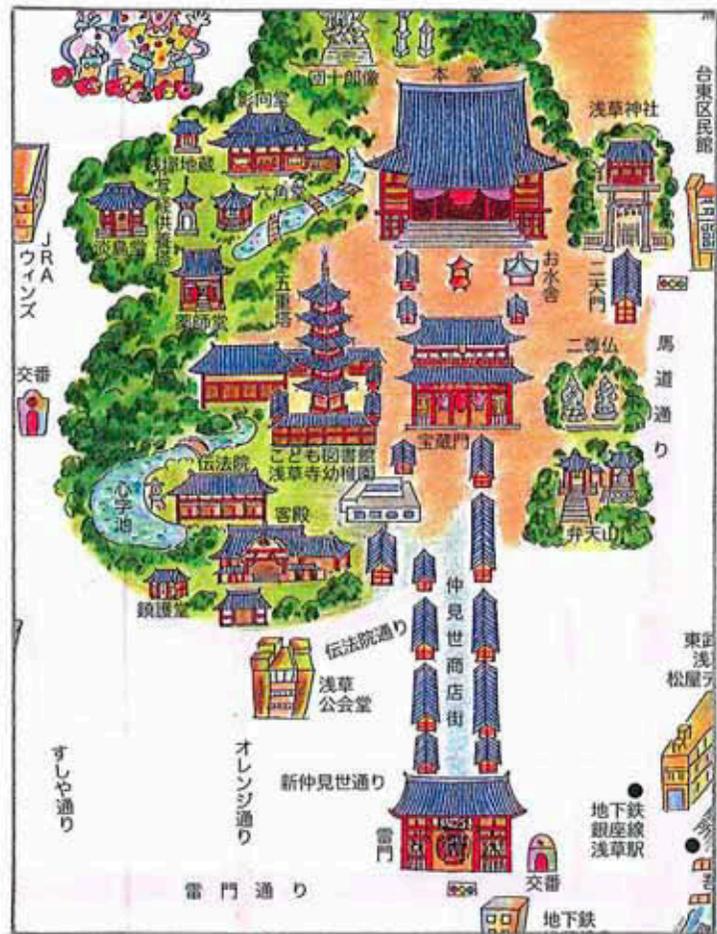
- ◆飛鳥時代の推古36年（628）土師中知の家臣の檜前浜成・竹成兄弟が隅田川で漁をしていると1寸8分の黄金の観音像が網にかかりこれを祀ったのが始まりとされている。
- ◆江戸時代の元和年間（1615～1624）の頃から参拝客が増え始めた。
- ◆本堂は戦災で焼失、昭和33年鉄筋コンクリート造りで再建された。現在では海外にも知られ、年間約3000万人もの人がおとずれる観光地になっている。



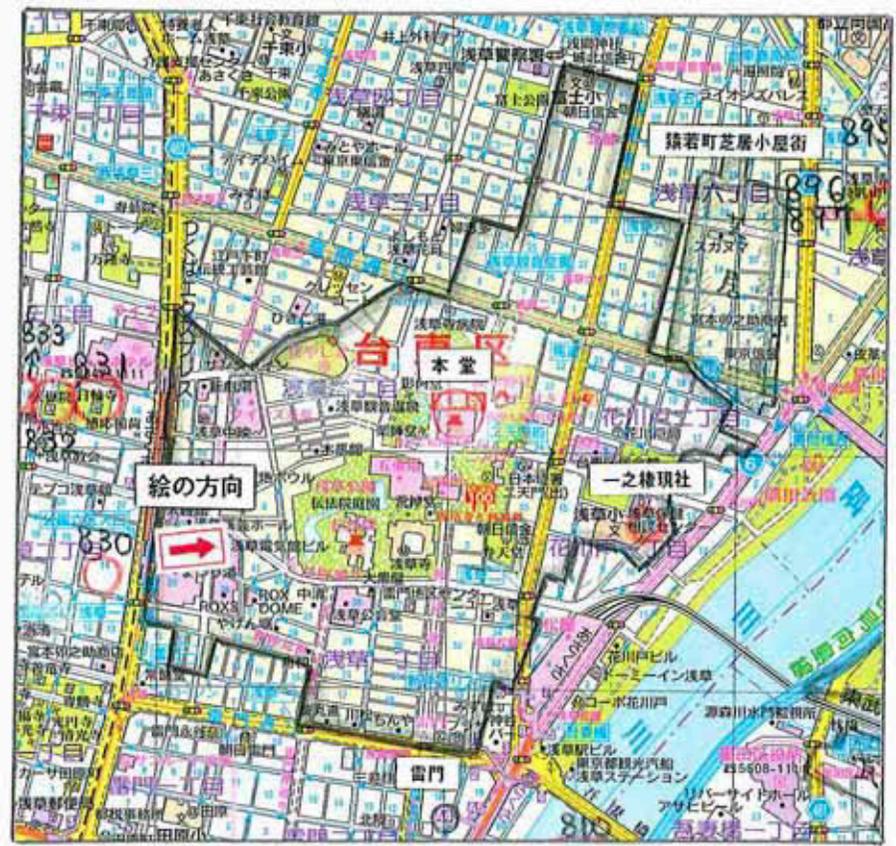
本尊が網にかかった時の絵



浅草寺のパフレット



境内の案内図



江戸時代の範囲。約13万坪あった。現在は4万9千坪。

《台東区》

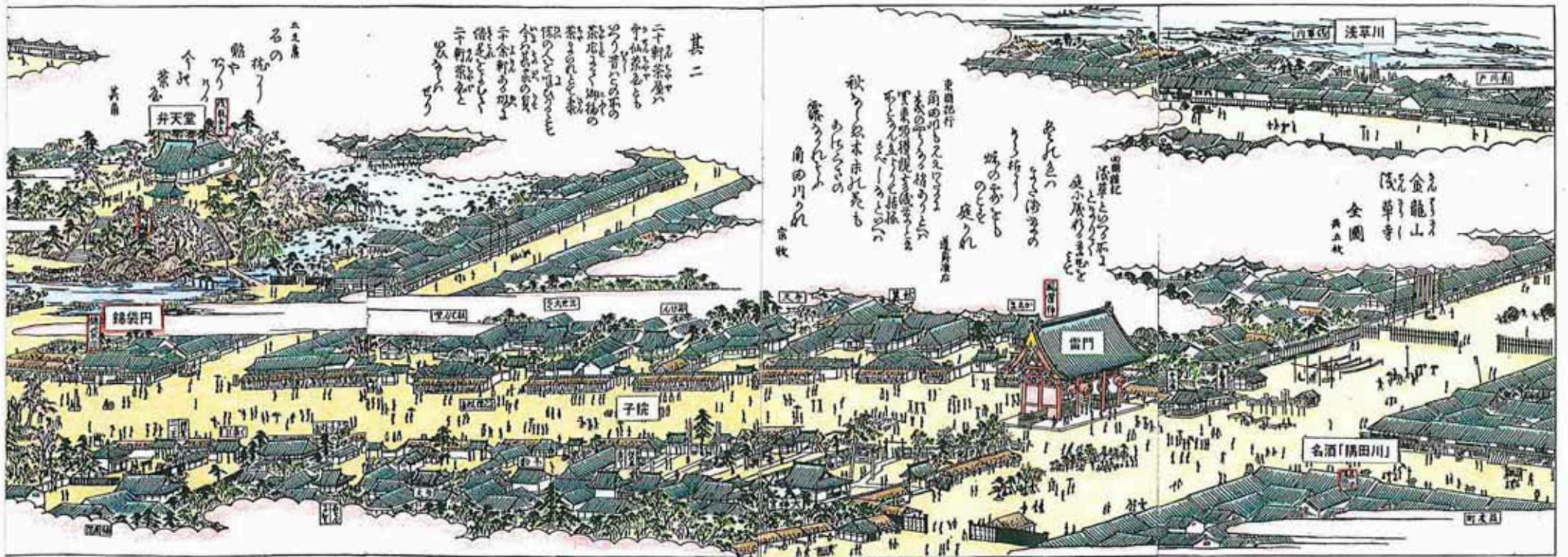
43 金龍山 浅草寺

Ⅱ江戸の名残りを今に伝えるにぎわいの街Ⅱ

台東区浅草二丁目三丁目

◎上記の絵の本尊を最初に祀った場所

一之権現社（顕松院）今はないが浅草小の東寄りにあった寺で浅草寺はここから始まった！創始者の土師中知の住居跡か。



今の仲見世の所は両側に13の子院が並んでいた。

総門は平安時代中期の天慶5年(942)の創建。正式名は「風雷神門」という。



「錦袋門」という不忍池の南側の仲通りにあった薬屋の出店。



仲見世 約250mに90店程の店が並んでいる。



雷門は昭和35年松下電器の松下幸之助氏の奇進により95年ぶりに再建された。



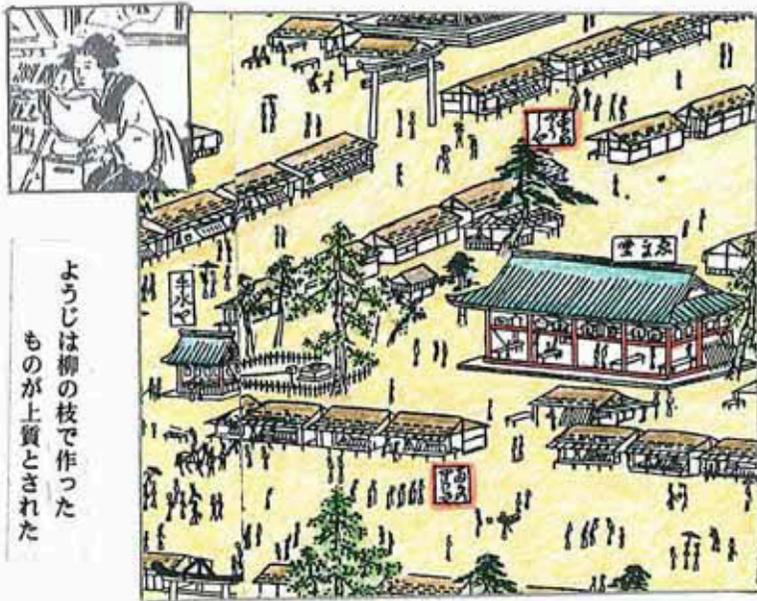
伝法院は飛鳥時代の大化元年（645）の創建と古く、浅草寺の僧侶達の住まいの本坊だった。

五重塔は戦災で焼失、昭和48年今の所に移して再建された。



本堂。戦災で焼失し昭和33年再建された。

令和2年3月24日 撮影



ようじは柳の枝で作ったものが上質とされた

「雨がりようじせ」とある

楊枝（ようじ・今の歯ブラシの様な物）を売る店があり美人をそろえて売上を競った。

金龍山浅草寺

抑當寺は、一千七十有餘年を経るの古刹にして、實に日域無雙繁昌の靈區なり。天台宗にして、東叡山に屬せり。



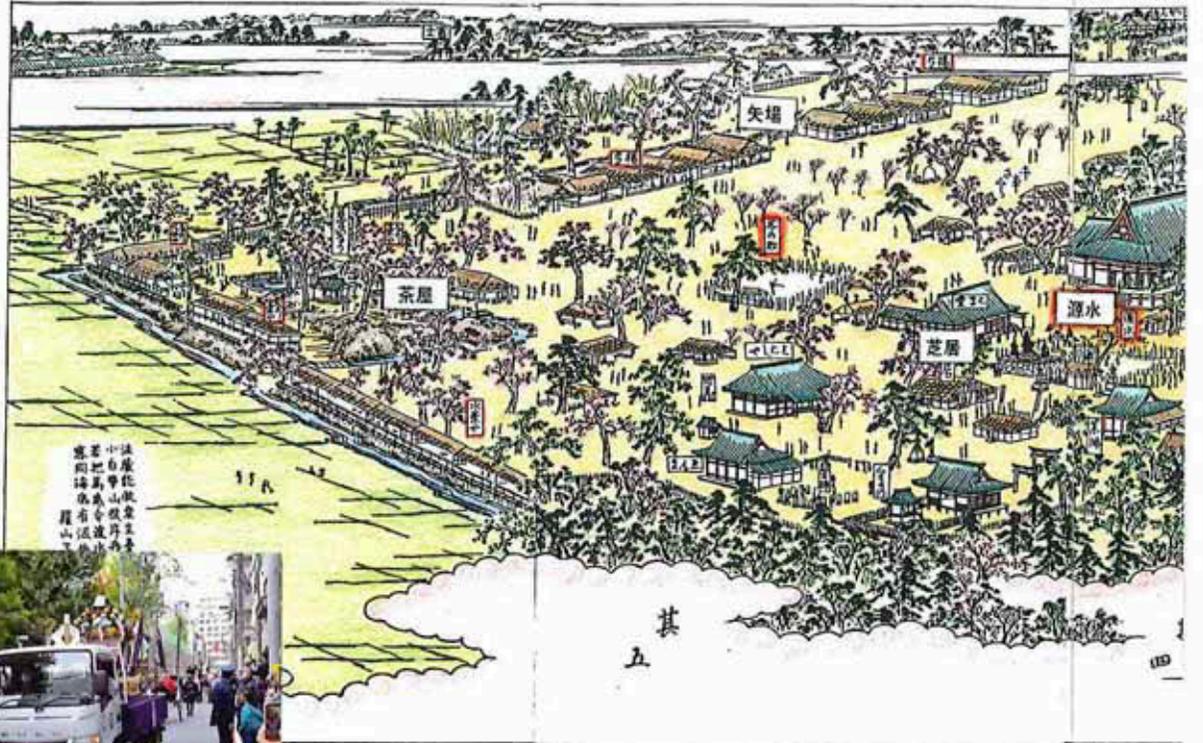
浅草神社：元は三社権現社といい平安時代後期の創建で浅草の総鎮守。三人の創始者を祀る。



三社祭の三之宮。



「奥山」は現在は観光バスの駐車場になっている。



令和2年10月18日の三社祭。

観音堂の裏は「奥山」といって茶屋・弓場・大道芸などの盛場となっていて終日にぎわっていた。

「源水」は松井源水といい曲独楽の名人で、9代將軍家重が浅草へ御成りした際芸を上覧し一躍有名になった。富山の出で薬の「反魂丹」を製造し芸を見せながら薬を売った。17代も続いて13代源水はアメリカへも行って芸を披露した。

となりの「芥の助」も同じ大道芸で人気があった。



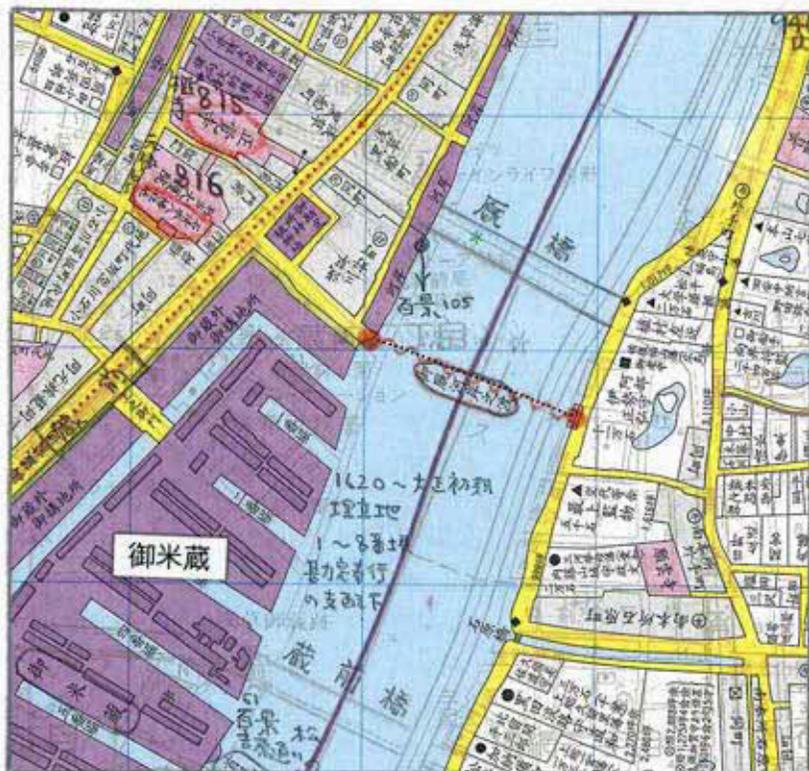
|| 隅田川にあった渡し場 ||



厩橋の少し下流に渡し場があった。

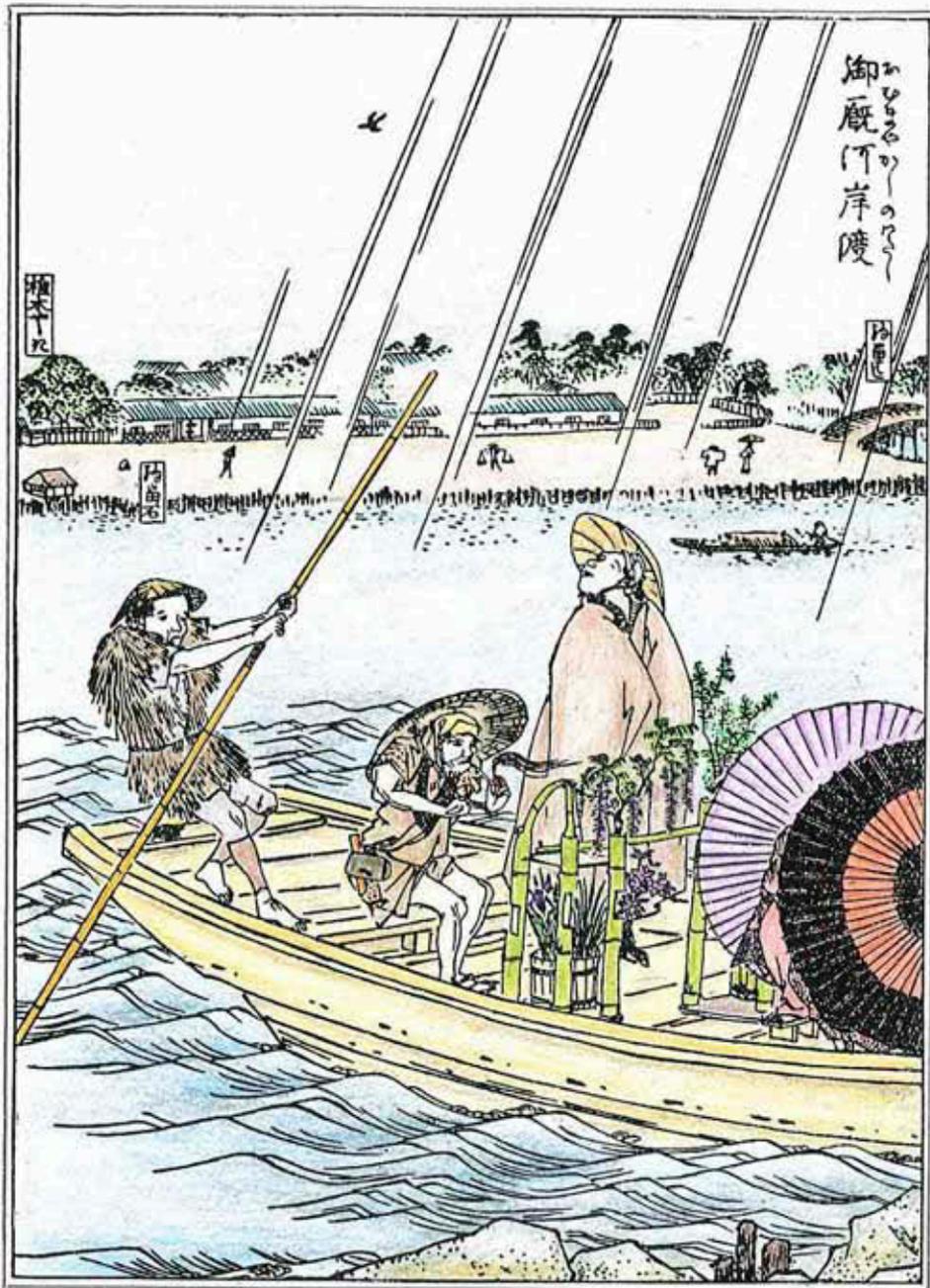


隅田川十三橋の1つ。明治7年に木橋で架けられた。昭和4年今の鋼橋に架けかえられた。長さ152m・幅22mある。

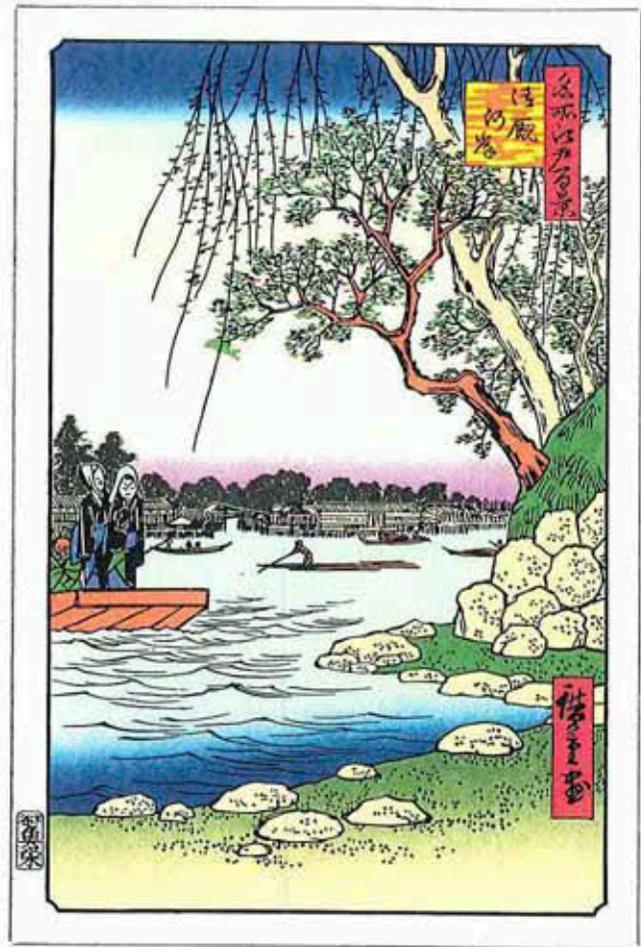


渡しは幕府の米蔵の北の端にあった。





元禄3年(1690)定められた渡し場。武士は無料で庶民は二文だった。明治7年に橋が出来るまで約180年もあった。絵は雨の日の渡しで、女性客が傘の影にのっている。



『広重名所江戸百景』

冬の暮れで夜鷹が二人船にのっている。
蔵前側から墨田区側を見ている。



「蔵前」

元和6年(1620)幕府が年貢米蓄蔵用として造った米蔵が、今の蔵前二丁目にあった。旗本・御家人達への支給米で蔵の数が356戸もあった。

鳥越神社の山を崩して埋め立てた。大正初期に埋め立てられた。

家康入国の頃から続いている焼物の老舗

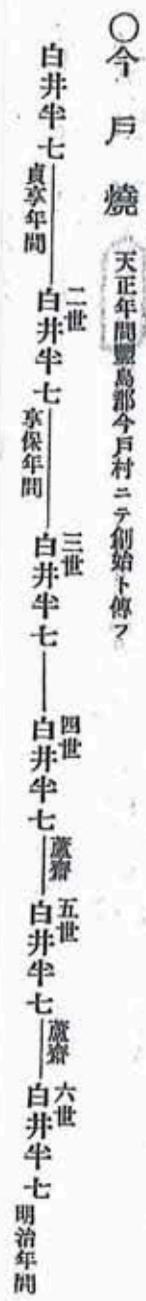


今はこの1軒しか残っていない。表札には白井家の名がある。この門構えは現在は替わっている。



『絵地図で歩く下町散歩』

白井家の系図



「元祖」のまねき猫の焼物

今戸焼のいわれ

今戸焼は、天正年間（1573～1592）千葉氏の家臣が土着して始めた。千葉氏は白髭橋の北側の石浜城を居城としていた武士。江戸の名物で高級品はなく生活用品の瓦や火鉢・食器・土瓶・人形などを売っていた。特に招き猫はここが元祖といわれている。初代白井半七は貞享年間（1684～1688）の人。



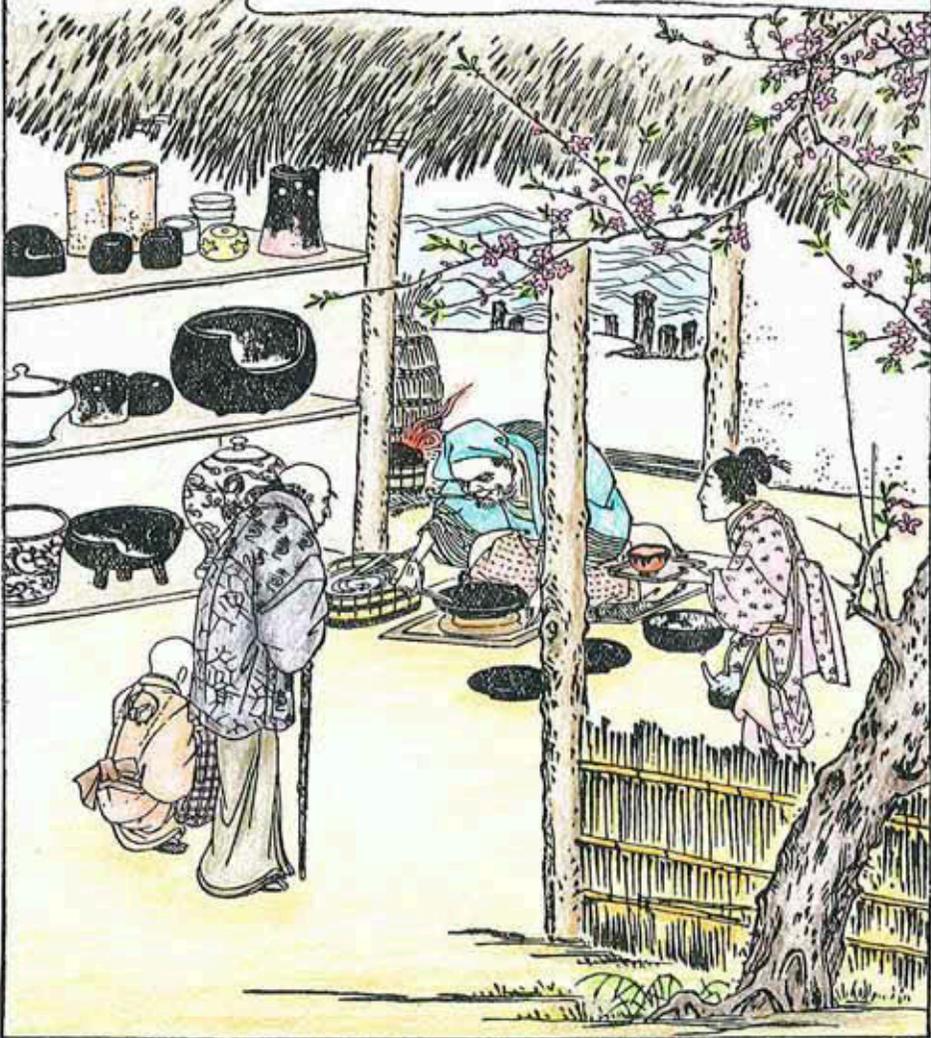


此辺甄者
陶器匠ありて
是を産業
とする家多し
世に今戸焼
と称す

今戸焼
此辺甄者
陶器匠ありて
是を産業
とする家多し
世に今戸焼
と称す

元禄二年七月
三月間田所
然り
おとろひも
はつらつと
ほろり
今戸焼
と称す

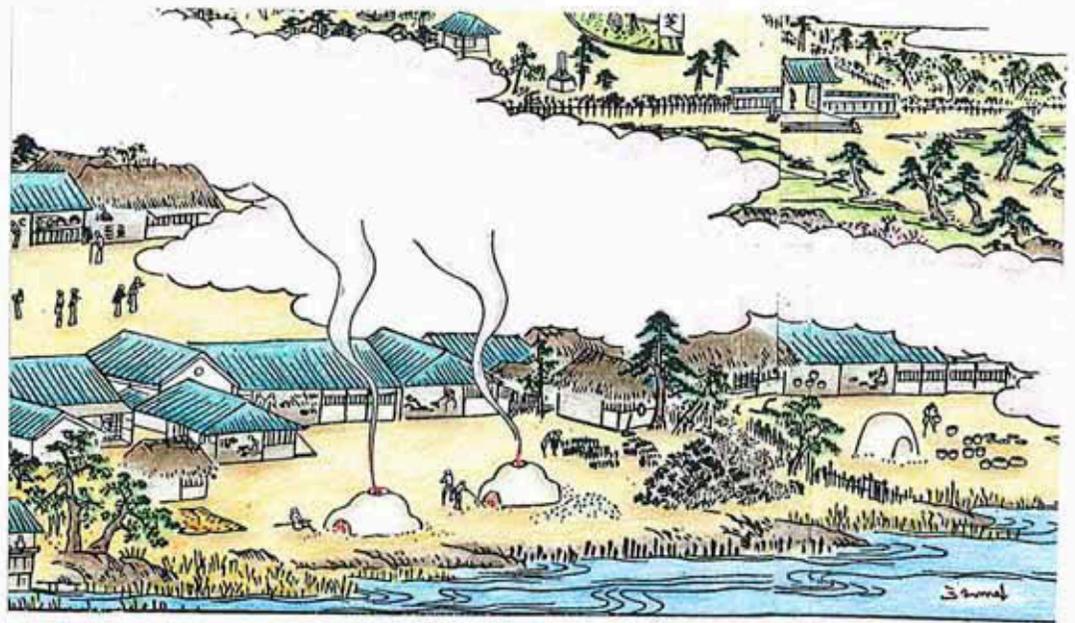
板風



江戸名所圖會 卷六



今戸神社は平安時代後期の康平6年（1063）創建で元は八幡宮だった。



隅田川沿いに窯が並んでいる。上の寺は今戸3丁目の長昌寺。

〓 神仏習合で神社の様な名が付いている古い寺院〓



A 絵と同じ方向の階段の下からの写真



本堂は昭和36年鉄骨の権現造りで再建された。



境内図



幕府公認の遊郭。今も形を変えて現役



今でも入口はくの字に曲がっていて中が見えない。



昔の通りの名が今でも使われている。



『広重名所江戸百景』

夜の日本堤。茶屋が並んでいる。季節は4月。



新吉原町

広さ約2万4千坪あった。東西180間(324m)
×南北135間(243m)ある。

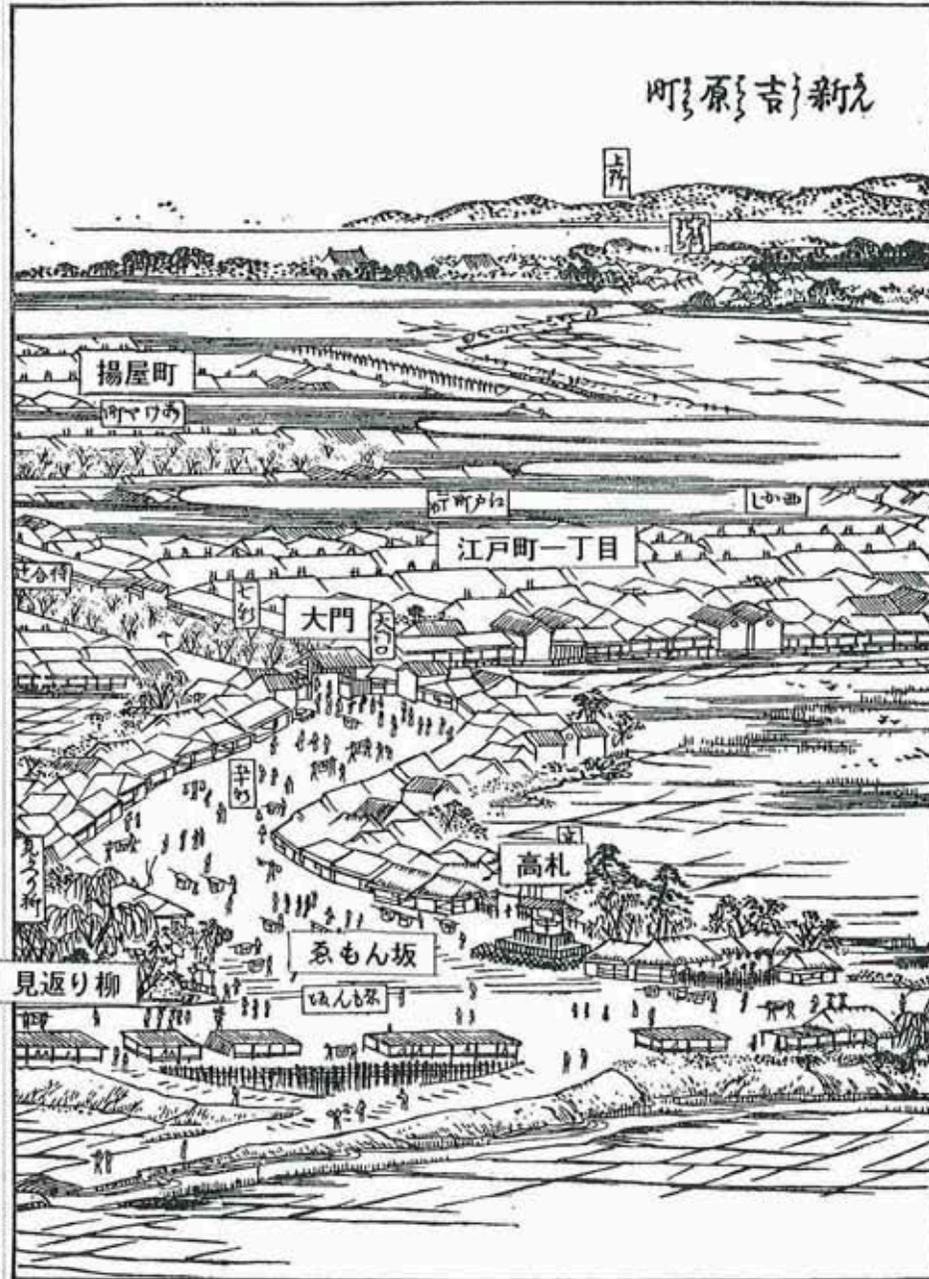
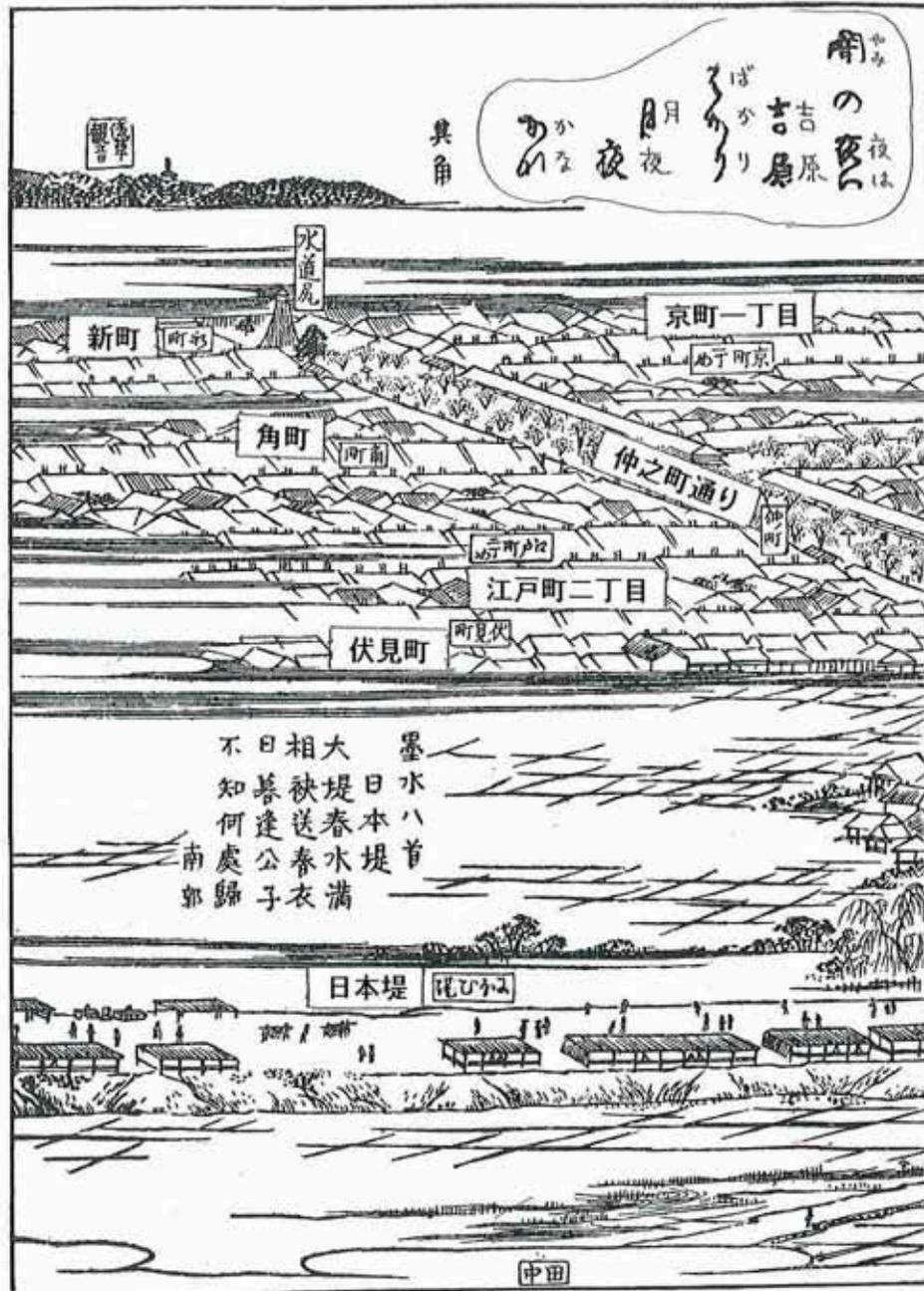
明暦3年(1657)の大火のあと日本橋人形町から
移ったので、元吉原に対して「新吉原」という。

新吉原遊女町 日本堤の下にあり。

明暦二年の冬、竟に今の所にて替地を賜ふ。

明暦三年丁の地にう

依て新吉原町と號けるといへり。



江戸名所圖會 卷六

日本堤：山谷堀の土手道で吉原への通り道。荒川の洪水防止の為 元和6年(1620)築かれた。



てくてく @ 江戸から続く歓楽街、吉原



歴史を感じさせる天ぶらと桜鍋の店

芝居、落語、小説。江戸時代から続く歓楽街、吉原（東京都台東区千束）は、さまざまなジャンルの作品に取り上げられてきた。樋口一葉の名作「たけくらべ」もその一つだ。冒頭に「廻れば大門の見返り柳いと長けれど……」と描かれた吉原大門。いまはガソリンスタンド

遊女の悲劇に思いはせ

前に、ひょろりとしたヤナギと記念碑が立つだけで、往事の風情はない。むしろ、土手通りを挟んだ反対側に歴史を感じさせる木造建築が並ぶ。桜鍋の「中江」と天ぶらちの「土手の伊勢屋」だ。どちらも人気店で、夕暮れには人の列ができる。ヤナギから続く曲がり道を進むと、かつての遊郭が風俗店に変貌した一角に出る。昼間のせいかな通りが少ない。歓楽街を抜けると吉原弁財天。境内には、関東大震災で犠牲になった多くの遺骸が埋め込まれた。土手通りには、この寺を愛し、よく訪れたという。境内には荷風の詩碑も建つ。荷風と同じように、遊女の悲しい境遇に思いをはせ、三ノ輪駅に向かった。

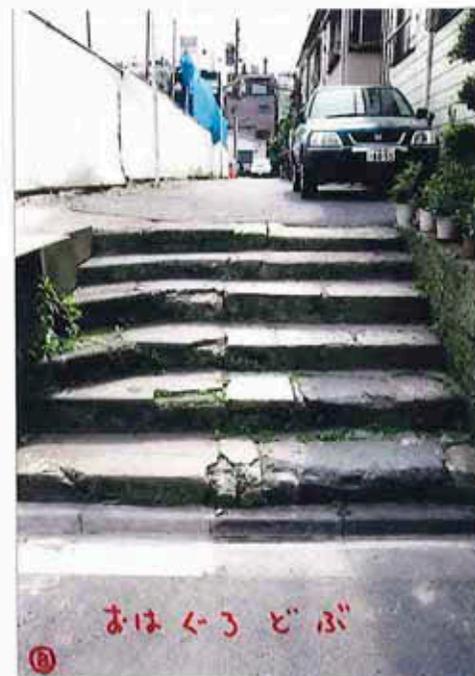
メモ 土手通りに面した居酒屋「堀や」の自家製メンチは、野菜サラダ付きで300円。



昭和の雰囲気を残す飲み屋。今はない。左隣りが吉原神社で堀の際。「鈴音」「つがる」の店の名がある。



明治8年創建。新吉原の守り神。



堀へ降りる古い階段が残っている。